

沖縄県立博物館だより 2000.11 No. 44

館長就任にあたって — 平田 與進



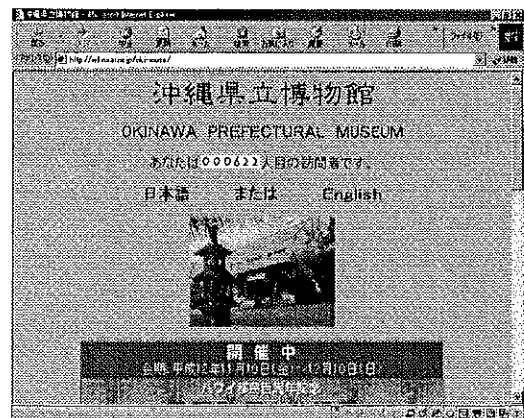
一般的に、博物館についての知識を持たない人や、その内容を知らされていない多くの人々は、博物館は学生や研究者等のための施設で、自分たちの生活とは無関係な施設だと思っているのが普通である。私もかつてそうであった。しかしながら、公務員には避けては通れない定期的な部署替えという制度がある。この度、その不可避な制度により、過去の人類経験の多大な集積施設である「県立博物館」への部署替えとなった。

この部署に身を転じて7ヶ月、職務を円滑に推進するうえから、多くの人々に博物館の貴重な文化遺産を幅広くPRし、利用者をひとりでも多く増すとともに館の活性化を図ることが、私に課せられた職務となっている。

21世紀を目前に、時代は刻々と変化し、博物館の利用者も多様化している。先人が築きあげたこのすばらしい郷土の歴史や文化を、また大切な美しい自然を、多くの人々の学習の機会に、生活の中に提供していきたいと考えている。

博物館にホームページ開設！相互交流の場をさらに拡大！

3年前からホームページの開設を要求し続けてきたにも拘わらず、なかなかクリアできなかった予算要求。しかし平成12年度には大琉球展の事業の一環として、やっと要求を実現することができました。
<http://wl.nirai.ne.jp/oki-muse/> なにやら訳の分からないような文字と記号がでてきましたが、これが博物館のホームページを開く場合の番号鍵のようなものになります。開け扉でよろしく！



第25回移動博物館～伊江島開催～

沖縄県立博物館では、博物館の利用に不便を感じておられる地域の方々に、博物館活動の一端にふれていただくため、昭和54年度から「移動博物館」を実施してまいりました。平成12年度は25回目の開催にあたり、平成12年11月24日～26日の3日間、伊江村B&G海洋センターにおいて実施する予定です。展示内容は自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗の総合展示を行い、高さ5メートルのサウロロフス骨格標本をはじめ、約300点の資料の展示を計画しています。また、移動博物館開催期間中に、伊江島の自然に関する「文化講座」と、野外に出て遺跡などについて学ぶ「野外学習会」を、地元の小中学生や父母を対象に実施することになっています。

九州・沖縄サミット開催記念

特別展「大琉球展—シマ・島・海—」を終えて

沖縄県立博物館では、九州・沖縄サミットの開催を記念して、特別展「大琉球展—シマ・島・海—」展を平成12年7月11日（火）から8月27日（日）までの41日間開催しました。

本展覧会は、「海」と「島」の豊かな自然の過去と今、また「海」を媒介としながら育まれた「シマ」の人々の歴史と文化を紹介するとともに、サミット開催を契機に沖縄を訪れる多くの人々に沖縄の自然・歴史・文化を紹介し、琉球のこころに接する絶好の機会として企画しました。全展示室を大琉球として位置づけ、国・県指定の文化財の数々を展示しました。

展示内容は「シマ・島・海」をサブテーマとして、琉球の自然、琉球の歴史、シマに生きる民俗、琉球文化の精華を集めた琉球の形と色を展開しました。中でも琉球王朝文化の神髄であります尚家関連文化遺産や沖縄の人間国宝などは本展覧会の目玉になる資料が多く、沖縄独自の歴史と文化を強調した展示となり、あらためて沖縄の自然・歴史・文化の奥の深さと資料の豊富さ、すばらしさを実感する特別展となりました。

前半の入館者が鈍く関係者をやきもきさせましたが、期間中10,512人の方々が観覧しました。ただ、当初考えていました多くのサミット関係者、中でも外国のマスメディアの取材が少なかったことは残念でした。沖縄の自然・歴史・文化を世界に発信する絶好の機会として捉え、特別展を準備してきただけに…

300回記念文化講座「アジアの民俗と沖縄」

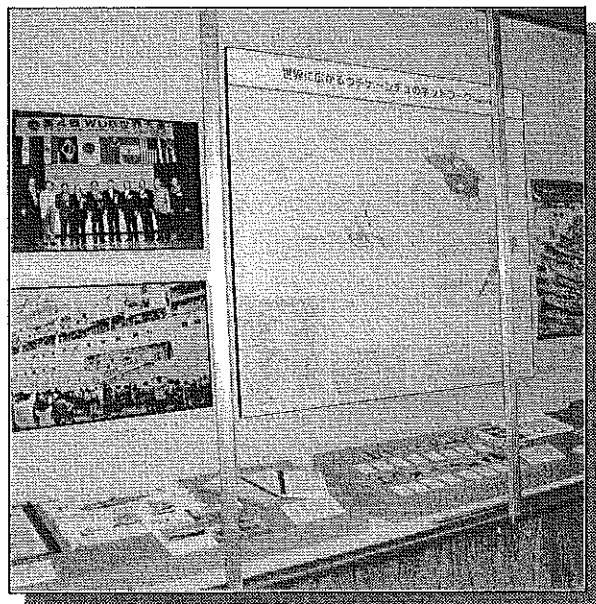
沖縄の歴史・自然・文化などについて、わかりやすい内容でたのしい学習をしていただくために、毎月1回開催されている博物館文化講座も1974年の第1回文化講座から26年目を迎え、300回を数えることになりました。これを記念して去る5月11日、博物館講堂にて300回記念文化講座「アジアの民俗と沖縄」が開催されました。講師には比嘉政夫氏（国立歴史民俗博物館教授）をお迎えし、アジアと沖縄とのつながりを東南アジア・東アジアでの調査体験を交えながら講演していただきました。

ハワイ移民百周年記念 特別展「日系移民1世紀」展

From Bento to Mixed Plate

全米日系人博物館（Japanese American National Museum、略してJANM）の熱意により国内で初めて「弁当からミックスプレートへ」の展覧会が11月10日（金）から12月10日（日）まで開催されます。この展覧会はハワイにおける日系アメリカ人の1世紀の足跡を追う内容です。当館では本年がハワイ移民百年の節目の年にあたることから、この機会にハワイの日系人に加え、その他諸国の移民を含めて移民県沖縄を語るにふさわしい展示会を開催したいと考えておりました。そこでJANMの展示に加えて、「沖縄移民の百年史」をテーマにした展示も併せて開催します。

第1部では歴史展示室を使用し、「弁当からミックスプレートへ」の展示を9つのモジュール（小部屋）を用いて、約200点の資料を展示します。1世・2世・戦争・帰還・3世までの活躍を、多文化社会ハワイを舞台にした日系アメリカ人の軌跡が語られます。



第2部では2階の企画展示室と美術工芸室を使用して、「沖縄移民の百年史」をテーマに沖縄から発信した移民の実状について語ります。「モーキティクーヨー」のかけ声のもと、戦前・戦後多くの人々が移民として海外へ雄飛しました。そのおかげで戦前の沖縄県の経済は潤い、戦後は海外移民から送られた救済物資によって人々は寒さと餓えをしのをぎました。実は海外移民地にもうひとつのオキナワ社会と文化が存在するのです。

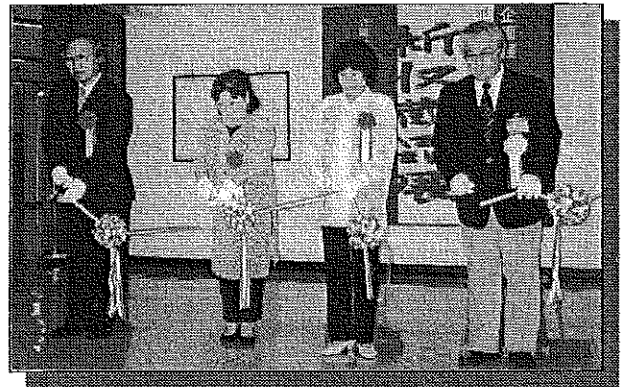
21世紀の船出にあたり、今一度移民の目と心を以て、自らの文化を見つめ直す契機となればと思います。

右写真→第1部「From Bento to Mixed Plate」
1階展示室
上写真→第2部「沖縄移民の百年史」
2階展示室

企画展「平成11年度新収蔵品展」

『新収蔵品展』は、博物館が1年間で寄贈・購入・収集によって受け入れた資料を一堂に展示し、今後の博物館活動の充実と発展をめざして開催されるものです。今年度は9月14日(木)から10月22日(日)まで開催されました。

平成11年度の新収蔵資料は寄贈・購入・収集合わせて250点になりました。このうち29名の方から貴重な資料を寄贈していただき、112点を抜粋し展示いたしました。



博物館シアター

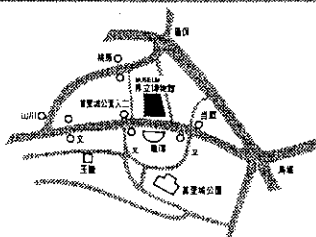
12月10日(日)
なつかしの名作「ひまわり」
★戦争により運命を翻弄された男女の物語

子ども体験教室

紅型をつくろう
講師：屋富祖幸子
(琉球びんがた伝統工芸士)
11月11日(土)
紅型の作り方を学び、
製作に入る
11月25日(土)
紅型の製作をする
12月17日(日)
作品を完成させる

文化講座

11月18日(土)
沖縄の移民
講師：石川 友紀(琉球大学教授)
12月9日(土)
沖縄人(ウチナーンチュ)の来た道
講師：土肥 直美(琉球大学助教授)
1月20日(土)
植物資源としての繊維・染料植物
講師：花城 良廣
(海洋博記念公園亜熱帯都市緑化植物園園長)
2月17日(土)
染織からみる一染料植物—
講師：新垣 幸子
(県指定無形文化財「八重山上布」技能保持者)
3月10日(土)
北部の野鳥観察会
講師：嵩原建二(沖縄県立博物館学芸員)



【交通案内】

—那覇空港発—

125番(如花線)「桃原」バス下車、徒歩10分
102番(空港普天間線)「当蔵」バス下車、徒歩3分

—市内バス—

1番(首里識名線) 12番(末吉線) 17番(石嶺間南線)の「首里城公園入口」、または「当蔵」バス下車、徒歩3分

—市外バス—

46番(糸満西原線)「当蔵」バス下車、徒歩3分
25番(石川) 97番(虎大線)の「桃原」バス下車、徒歩10分

沖縄県立博物館だより

No.44

発行年月日：平成12年11月
編集・発行：沖縄県立博物館
住所：〒903-0823 那覇市首里大中町1-1
TEL 098-884-2243
FAX 098-886-4353